

JSR Bioscience and informatics R&D center(JSR BiRD)の センター長に新しく就任した古賀様にお話をお伺いしました。



新しくセンター長に就任された古賀裕久様

2021年7月、神奈川県川崎市のキングスカイフロントに開所したJSR Bioscience and informatics R&D center(JSR BiRD)。JSRグループのライフサイエンス研究からオープンイノベーションまでを担う、R&D拠点として、未来に向けた価値の創出に取り組んでいます。今回、4月より新しく就任した古賀センター長に、JSR BiRDの機能や取り組み、ご自身の今後の意気込みを伺いました。

JSR BiRDについて

JSRにはデジタルソリューション事業、ライフサイエンス事業、合成樹脂事業の三本の柱があります。その中で私たちは“ライフサイエンス事業”に関係の深い、マイクロバイオームの分野で薬やヘルスケアに繋がる研究、DDS（ドラッグデリバリーシステム）に活用できる物質の開発を行っています。JSR BiRDは新規事業、新規研究を推進するという目標のもとに設立されました。当センターには現在、専任と兼任を含めて60～70名在籍しています。

キングスカイフロントにおける活動

JSR BiRDではオープンイノベーションを推進しています。実際に複数社と共同研究を行いつつ、これらの企業が当センターに入居し、ラボも一緒に使用しております。その中で、密な交流ができたり、わからないことがあった時に聞きに行ったりできる場として、当センターを活用・提供しています。また、入居企業であればイベントの会場として利用することが可能であり、開催・参加共にできるようになっています。共同研究を前提にスタートアップ企業を誘致し、同じ建物に入居する取り組みは、世界的に見ても最先端な取り組みと思います。

古賀センター長について

実は、私自身は別の会社からJSRに came ました。最初にいた会社では研究職をしており、その後、戦略企画や事業開発の仕事を通してキャリア形成しました。その経験を経て、現在、JSR BiRDでの研究の社会実装、事業化を推進する役割を担っています。

今後の意気込み

JSRに「MATERIALS INNOVATION」という企業理念があるのですが、私たちはものづくりやサービスで社会に貢献していきたいという思いがあります。JSR BiRDにおいては「技術を世間に認められるような価値に変えていくこと」が一番大事な使命であると思っていますので、その目標に向けてしっかり取り組んでいきたいです。



JSR BiRD外観

会社ロゴを新しくしました

株式会社ナレッジパレットは、研究開発や共同研究を通して成長し続けるライフサイエンス、ヘルスケアのスタートアップ企業です。細胞のビックデータを世界一正確に、高速にプロファイルする大規模トランスクリプトーム解析技術とその情報を使った細胞制御技術がコアコンピタンスです。今回、コーポレートアイデンティティ『KP WAY』に込めた思いをビジュアルとして表現した、新しいロゴマークについてご紹介いたします。ロゴの矢印はナレッジパレットの頭文字である『K』『P』であり、かつ人の手によって細胞を制御することや技術を新しく生み出し、発展的に広がっていくことを表現しています。色にも意味が込められており、メンバーの思考の深さを海や空の青さと捉えて、思考が深くなればなるほど濃くなるイメージから紺色に、そして地球や自然をイメージしたグリーンを使用しております。最後に、中心の円（種）にはこれまで使用していたロゴのブルーに近い色を使用することで、創業当時から不変であること、そしてコア（核、芯）から外さず発展する事を表現しています。

【新】  Knowledge Palette

【旧】  knowledge palette

最新情報はこちら

注目トピックス

盛山正仁 文部科学大臣 キングスカイフロントご来訪

盛山正仁 文部科学大臣がキングスカイフロントに視察のため、ご来訪されました。視察先の一つである『ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）』は、多彩な企業や大学の人材・知財・成果が集積するオープンイノベーション施設です。同施設では、活発な研究活動と、研究成果の社会実装を支援するインキュベーション事業の盛り上がりについて説明を受けられるとともに、iCONMの研究者とも交流され、最後には各国の旗を持って、記念撮影が行われました。施設内の見学や、関係者との意見交換を経て、盛山大臣には、日本の研究基盤の裾野を広くし、



【写真提供：文部科学省】

頂点をどんどん高くして、日本でしかできない最先端の研究や技術等となるよう、これからの展開に期待し、文部科学省としてもお手伝いしていきたい、と述べていただきました。

詳細はこちら

iCONM Now

顔の見える関係づくり

「キングスカイフロントネットワーク協議会懇親会」開催

5月21日、キングスカイフロントネットワーク協議会主催の「2024年度総会」が開催されました。2023年度を総括した事業報告や、2024年度の新体制による事業計画が報告され、キングスカイフロント一丸となった取り組みを紹介、活気溢れる総会となりました。総会のあとは、恒例となった「キングスカイフロント顔の見える関係づくり」となる、懇親会が開催されました。総会の終了時刻に合わせ、キングスカイフロントの立地機関の皆さんが続々と集まり、総勢100名を超える参加者で、飲食を交えたネットワーキングが行われました。普段メールやビデオ会議などで交流される方々も、対面

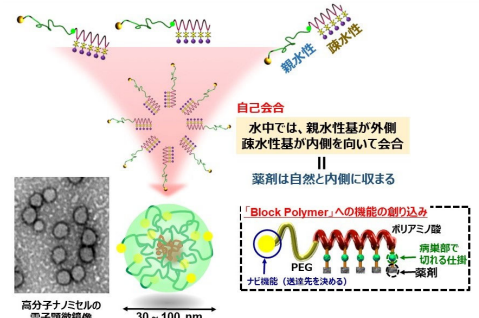


による場が提供される事で、より固い絆が築かれました。キングスカイフロントではこのような活動により「顔の見える関係づくり」を実践しています。

詳細はこちら

ナノ医療に必要な忍びの術

ナノ医療は、投与部位からの吸収が悪い/病変部への集積が悪い/代謝されやすい/壊れやすい/排泄されやすいなどといった、無駄の多い（生物学的利用率の低い）薬剤を高分子ナノミセルなどの担体に搭載することで、より少ない投与量での有効性と安全性を高めた薬物治療のことです。しかしながら、この担体自身が生体内で安定である必要があります。映画「ミクロの決死圏」は、ミクロン単位まで小さくなった医師が体内から治療を行うSFですが、医師のひとは免疫の攻撃を受けて命を落としてしまいます。同様に、ナノ医療で使う担体も、免疫により異物として認識されてしまうと壊されてしまいます。iCONMで創成するナノマシンが外殻（親水側）に有するポリエチレングリコール(PEG)は、免疫が異物として認識しない（ステルス性）素材の代表例で、生体内での安定性を保ちます。ナノ医療には、こういった忍びの術に長けたモノが必要です。PEG以外ではポリ(2-オキサソリン)類(POxs)が、より合成条件の制約が少なく、様々な部位での化学修飾が出来るステルス性ポリマーとして注目されています。最近、多様性が高いPOxsライブラリーの簡便で、迅速な合成法が、Joachim Van Guyse博士（オランダ・ライデン大学助教授）らにより報告されました。この研究は、彼が iCONMの博士研究員として在籍した際に行ったもので、多くの iCONM研究者が論文著者として記されています。



J. Van Guyse et al., Angewandte Chemie, e202404972

詳細はこちら <https://doi.org/10.1002/anie.202404972>

事務局からお知らせ

若手職員・研究者を紹介しませんか？

本紙では、キングスカイフロントで働く若手職員・研究者の皆様をご紹介する記事を掲載したいと考えております。自薦他薦問いませんので、ご興味のある方は以下のアドレスまでご連絡をお願いいたします。皆様からのご連絡を心よりお待ちしております。

事務局アドレス：pr-ksfcl@kawasaki-net.ne.jp

アンケートご協力のお願い

今後の情報発信に役立てるために、皆様のご意見やご要望をアンケートで集めております。以下のリンクからご協力をいただけますと幸いです。回答には、3分程度お時間をいただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

[アンケートはこちら](#)

購読のご案内

キングスカイフロントの最新情報を年4回お届けするi-Newsletterを購読ご希望の方は、こちらよりお申し込みください。（無料）

<https://ws.formzu.net/fgen/S11051741/>

発行日：2024年7月
発行元：公益財団法人川崎市産業振興財団
殿町キングスカイフロントクラスター事業部
Mail：pr-ksfcl@kawasaki-net.ne.jp